



仏さまの慈悲

井 上 直 之
(釋 直 道)

ともしび

今年は梅雨明けの発表がされた後も雨の日が続き、からつと晴れた日が少ない夏でした。

ご門徒さんからコロナ感染の報告を受けることが増えて、いよいよ身近になってきたと感じていた八月下旬、お寺でも家族に陽性者が出て、十日間教化活動やご法事ができない日々が続きました。私にとって、忘れられない夏となりました。

子どもたちは小学生と幼稚園の年中となり、最近は私に輪ゴムゲームを仕掛けてきます。

輪ゴムに指を通して、互い違いになるように指を返し、私がどちらかその輪ゴムを選びます。その輪ゴムをはずし、バツになると地獄、リボンになると天国という、私が子どもの頃からあつたゲームです。

さて、ここで少し話題を変えます。以前、家族でお昼ご飯を食べにレストランに行きました。そしたら、子どもたちのお子さまランチと妻の料理は運ばれてきたのに、

私の料理だけがいつまで経っても運ばれません。

家族はすでに食べ終わってしまい、しばらくすると店員さんから「ガスが故障しました」と言われてお店を出たことがあります。

問題はその後です。

帰り道、妻に「ひとりでどこか食べに行つてくれれば?」と言われ、空腹で少し苛立っていた私は「そういうことじやない! 家族で食べたかったの!」と四十歳を過ぎたいい大人がまるで子どもみたいなわがままを言つていたのです。

こんなにも些細なことで周囲が見えなくなつてしまい、自分中心で物事を考え、家族に気を遣われても気づかない私がいるのです。

そんな親鸞聖人を偲び、今年は久しぶりに通常のお勤めをさせていただきます。お齋は持ち帰りとなります。

私事ですが、現在ご本山西本願寺から法要やイベントを企画する有識者として招かれ、様々な活動に参加しています。ご興味がある方はぜひお声がけください。

皆さまにお会いできる報恩講を楽しみにしています。よろしくお

願いたします。

(住職)

年内の今後の行事について

十一月六日(日)午前十一時から「秋嶺忌」は、規模を縮小して勤めます。前住職妙澄師、前々住職弘三師、それ以前の歴代住職の法要といたします。

お参りを希望される方は、お齋の準備がありますので、前もってご連絡ください。

「成道会法要・バザー」は、賑やかな飲食を伴うので、残念ですが今年も中止といたします。



思い出の椎の木と本堂



被災した集会所の屋根

宗願寺の木々のこと

六道輪廻の世界では、上から天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道があると言われていますがどこに行けるのか。この答えは誰にもわかりません。

しかしそもそも私たちは天道(天国)に行くために良い行いをしているのでしょうか?

それ以前に私たちは現実問題、人間関係、お金、生老病死などの悩みがあり、良い心も悪い心もごちゃ混ぜになつて一生懸命に生きているのです。

親鸞聖人は、我々の煩惱具足の凡夫(煩惱をもとから身に備え持っている存在)であり、「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」と、縁によつて何をするかわからない存在であると教えてくださいました。

煩惱にまみれてどうすることもできない私たちだからこそ阿弥陀さまのお慈悲はあるがままのあなたを六道輪廻を超えて、そのまま救つてくださるお誓いなんですよと、浄土真宗のみ教えを明らかにしてくださいました。

本堂に向かつて左側に椎の木の古木があります。幹が空洞になり、枝が折れそうで、本堂を傷つける恐れが出てきたので、伐採することになりました。何とか助けたいと様々な方法を考えましたが、難しく、あきらめることになりました。

子どもたちは、祖母たちと実を拾い、フライパンで炒つて食べました。拾つてから時間が経つて殻が割れたものは茹でて食べました。子どもの頃、美味しいその味は今でもはつきり思い出すことができます。

薄甘くて美味しいその味は今でも野良犬がその根元の空洞で子育てをしたことありました。

思い出の尽きない大切な椎の木は、江戸時代の火事の焼け焦げの跡がある、と母から聞きました。目の前で雷が落ちて、焦げた枝が落ちたこともありました。

私たちよりずっと長く生てきた木々が、数多く存在する境内ですが、その「いのち」を守り続ける

ことの難しさに直面することがしばしばあります。

無言で、お寺を見守り続けてくれた大木を伐採することは抵抗があります。それでも、事故が起る前に手を打たなければなりません。集会所の事件で、特にそう感じました。

木を切ることを一切しなかつた祖父のことを思っています。戦時中、炊事をするため薪にするとも許さなかつたという祖父に叱られそうな気がします。

最後に、見納めとなる、本堂に向かつて左側に茂る椎の木の写真を皆さんに見ていただきたいと思います。思い出の景色となります。

(由真記)

彩弥と弥那との日々

井上明寿子



ママと一緒に

どの成長ぶり?を發揮しています。

もちろん、良くない言動はすぐ認めないときや急いでいるときは「まま、いつもおこらないでいる」と知りながらも、自分に固執情的になつて子どもが泣くことが増えてきました。

悩んでいたある日、弥那がそつと手紙を持つきました。そこには「まま、いつもおこらないでいてくれてありがとう」と書かれていました。

素直な一言でした。教えよう、伝えようとし過ぎて、弥那には「ママが怒るか怒らないか」という手段がいちばん強く伝わってしまつていました。

彩弥はパズルや絵を描くことが大好きです。プールに連れて行っても光や泡を観察し、ふわふわと浮かんで楽しんでいます。弥那は友達と遊ぶのが大好きで、家でもよく食べよく喋り、とにかくじつとしていません。

お盆には、一緒に掃除をしたり、お参りに来られた方へお供物をお渡したりと元気に手伝ってくれていましたが、夏休みの終わりに二人ともコロナにかかりました。大人も子どもも高熱が続きましたが、幸い全員回復して、元の生活に戻ることができました。

最近は、一人とも子どもらしく表情がコロコロと変わり、喧嘩する私に言いつけて来たり、「お菓子はパパにお願いして手に入れづくまでなかつたことにする」な

感じことがあります。

今回は娘に気づかされました、「善悪や良し悪し」が「底のない不安定な自分の上に成り立つては「まま、いつもおこらないでいる」と知りながらも、自分に固執する」が私たちです。

しかし、そういうときに手を合わせ、み教えを紐解くと、ずれた自分が見える瞬間があります。それは信心をいただくということでもあります。

未熟な私には小さな気づきですが、これからもみ教えとともに、親としても少しずつ成長して行けたらと思います。(坊守)

この秋に思う

釋由真

が中学時代に英語を教わった恩師です。彩弥が入学したこともあり、校長室へよくお邪魔するのですが、先日、同級生と一緒にお会いしたとき「邂逅」と書かれた色紙をいたしました。

邂逅とは、思いがけない出会いや再会、運命的な出会いを指します。まさに集まつたメンバーの「邂逅」でした。

私たちの一つの出会いを「偶然」「運命」「日頃の行い」というようになります。良い意味で「ご縁」を使う

こともありますが、搖らぎのない嬉しい出会いも、心暗くする嫌な出会いも、どちらも「ご縁」です。

言われますが、出会いも別れも含めたすべてが仏縁です。

お寺で生活するようになつて、自分自身の物の見方が変わつたと

を考えました。「私がそちらに往くまで、みんなと一緒に待つててね」そんな風に語りかけています。

同じ年だったこと也有つて、母と仲良くしてくださつて吉野徳子さんが長い闘病の末に往生されました。母の待つお淨土に往かれた……上手にできたお赤飯を母と一緒に受けとめています。

境内の木を切ることに、私の胸が痛みます。

悲しいことが色々あるなーと思っています。「それが生きてるってことだよね」と、ご門徒さんによく言う私です。ご門徒さんをお慰めしようと語りかける言葉は、すべて弱い自分を支える言葉でもあります。南無阿弥陀仏とともに。

今では回復しましたが、八月にコロナに罹り、これは新しいウイルスだなー……と感じました。急に身体中が火のよう熱くなったり、だるくて立つていられない、長い間、ギンナンを拾つたり剥いたり、境内の清掃や草取りをしてくださつていた戸蒔チヨ子さんがこの夏往生されました。昼食を作り、遠慮がちに茶わん蒸しをリクエストしてくださつたときのことなどを思い出すと泣きたくなります。

婦人会の活動にも熱心で、いつも一緒にいたので、突然寂しさに襲われたり、動悸がしたり、死別の悲しみには、慣れることができました。



弥栗(みくり)と名付けました。うちの女の子の名前には「弥」の字がつきます。栗剥きばかりしているときだったのでもうござよろしくお願いいたします。

初めての経験でした。

コロナ禍、ギリギリまで様子見をしていましたが、報恩講に皆さまにお参りしていただきことを決めて、元気が出ました。お目にかかることがとても嬉しいです。

合掌

編集後記

「ともしび」が第五十号となりました。年二回の発行ですから、二十五年間続いたことになります。東京仏学院在学中に、手書きの第一号を作りました。

父が亡くなつた後、築地本願寺まで毎日通学していました。そのために一生懸命努力してきたつ

もりですが、皆さまの目に映る私ほどのようにあつたか、思い返すと恥ずかしいことばかりです。

新しい家族を紹介します。集会所にネズミが出て困つっていました。御法(みのり)がいたときはそんなことなかつたのに……と思つていたら、新しい出会いがありました。うちの女の子の名前には「弥」の字がつきます。栗剥きばかりしているときだったのでもうござよろしくお願いいたします。

「ともしび」が第五十号となりました。年二回の発行ですから、二十五年間続いたことになります。東京仏学院在学中に、手書きの第一号を作りました。

(修正会)1月1日午前10時
本堂にてマスク着用のこと

宗願寺合唱団の練習
第2土曜日 午後1時半
16日 午後1時半

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://sougwanji.com/>

(印刷所・阿部印刷)

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由美子

(由美子)
合掌